

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	理科	科目	科学と人間生活		学年	3年次	単位数	2単位	
教科書	東京書籍 科学と人間生活				副教材	なし			
レポート 添削指導		6通	スクーリング 面接指導	8回	メディア 視聴票	4通	試験	2回	
指導 目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。								
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容			面接 回数	メディア(NHK高校講座)	
1	4月12日	5月17日	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用 1 ささまざまな微生物 2 私たちのくらしへの微生物の利用	・身のまわりの微生物 ・窒素と微生物のはたらき ・微生物の発見の歴史 ・発酵のしくみ			2	1 SDGsがひらく未来 2 微生物との共生 3 ノーベル賞学者	
2	5月17日	6月14日	2章 ヒトの生命現象 1 ヒトの視覚と光による影響 2 血糖濃度を調節するしくみ 3 体を守る免疫のしくみ 4 生命現象の大本となる遺伝子のはたらき	・視覚とは何か ・血糖とは何か ・感染症から体を守るしくみ ・遺伝子と DNA ・体内ではたらくタンパク質			1	4 視覚 5 病との闘い 6 遺伝子とは	
3	6月14日	7月12日	2編 物質の科学 1章 材料とその再利用 1 リサイクルとは何か 2 金属の性質とその再利用 3 プラスチックの性質とその再利用	・資源の再利用と 3R ・金属の性質 ・金属の製錬と人間生活 ・プラスチックの性質と分類 ・プラスチックの再生利用			1	7 リサイクル 8 スマートフォンのメカニズム 9 プラスチックの科学	
4	7月12日	11月1日	2編 物質の科学 2章 衣料と食品 1 衣料の科学 2 食品の科学	・繊維の種類と性質 ・石油からつくられる合成繊維 ・体に必要な栄養素 ・炭水化物の性質			2	10 繊維がひらく未来 11 グルメの神髄	
5	11月1日	11月29日	3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 2章 熱の性質とその利用 1 熱とは何か 2 エネルギーの利用と私たちのくらし	・光の進み方とその見え方 ・さまざまなスペクトル ・電磁波の利用 ・原子や分子の熱運動 ・熱の伝わり方 ・力学的エネルギーと熱エネルギー ・熱エネルギーから仕事への変換			1	12 テレビ技術の発展 13 自動運転のしくみ 14 エアコンのメカニズム 15 発電のしくみ 16 SDGsと物理	
6	11月29日	1月17日	4編 宇宙や地球の科学 1章 太陽と地球 1 太陽と月がもたらすリズム 2 太陽が動かす大気と水 2章 自然景観と自然災害 1 身近な自然景観の成り立ち 2 自然災害と防災	・太陽と月がつくる暦 ・太陽の放射エネルギー ・1年を通じた大気の運動と気象災害 ・移り変わる地球の景観 ・火山がつくる景観 ・自然災害とは ・火山による災害			1	17 層とくらし 18 大洋が動かす大気と水 19 世界の絶景ポイント 20 地震と津波	
学習の成果に係る評価規準									
【知識・技能】 ・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。									
【思考力・判断力・表現力】 ・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。									
【主体的に学習に取り組む態度】 ・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。									
○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの3段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。									
単位の修得の認定に関する基準									
観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。									